

令和3年度 幼保小連携推進地区

小机地区活動報告

小机小学校・小机幼稚園



推進テーマ



地域に愛され、地域に学び、地域と共に育つ

R3年度

～コロナ禍を乗り越えて、
踏み出す新たなあゆみ～



委員会の記録



- ◎ 第1回打合せ(04/22)
 - ◎ 活動計画・内容・予算確認
- ◎ 第2回打合せ(06/03)
 - ◎ 担当者顔合わせ
 - ◎ 動画交換(映像交流)にあたり、内容確認
- ◎ 動画交換(06/22)
 - ◎ 幼稚園「こづくえようちえんのいちにち」
 - ◎ 小学校「こづくえしょうがっこうのいちにち」
- ◎ 第3回打合せ(01/12)
 - ◎ 今後の活動確認
 - ◎ 報告書作成について



幼保小交流の話し合い



- ◎ 4月22日、6月3日、1月12日に交流について話し合いを行いました。情報交換をし、計画を立てました。コロナ禍でもできることを見つけて、行えるよう考えました。





映像交換



◎ こづくえようちえんのいちにち

◎ 交換目的

小学校1年生に年長児の様子を知ってもらうとともに、教員に対する解説を加えることで、保育における見えない部分を理解してもらう。

◎ 映像内容

日常的な一日の流れを、コメントを入れて紹介
登園～朝の身支度～あそび～一斉活動～昼食～降園



こづくえようちえんのいちにち



◎ 小学校教員へ向けて

◎ 当園保育者の視点や、表面には現れない考え、支援等について、タイムテーブルに沿って解説を記載させていただきます。動画と合わせてご一読いただけたら幸に存じます。なお、幼稚園の場合文科省管轄なので、教員免許は“幼稚園教諭”となりますが、記述の際には“保育者”という呼称を使用します(中には、幼稚園教諭を“保育士”と記述する養成校の学生もおりますが、保育士は厚労省管轄の資格なので、保育園で使用します)。



こづくえようちえんのいちにち



◎ 登園の様子

◎ 自分で出来ることは自分で
コロナ禍における「新しい生活様式」



◎ おはようブックに捺印

◎ 数字や日付・曜日に対する意識付けとなります



◎ その日の体調や気持ちを確認する“視診”



◎ リーダーさんのお仕事

◎ 責任感、自立心を育むことを狙いとします



こづくえようちえんのいちにち



◎ あそびの時間

◎ 保育者はただそこにいるだけではなく、子どもたち一人ひとりのことを理解した上で、言葉を掛けたり共感したり、その子に相応しい関わりを持ちますが、“見守る”ということが援助となる場合もあります。その前提となるのは“(一人ひとりの)子ども理解”です。





こづくえようちえんのいちにち



◎ 朝の会

- ◎ みんなの前で話すことで、緊張感を持ち、その経験が自主性や責任感を育みます。



◎ 野菜の観察

- ◎ 過去には、個々が“自分の”花を育てたこともありますが、個体差が生じる(枯れてしまったり、その成長に差が生じる)ことがあり、「植物の生長、収穫の喜びを感じる」というねらいの元、達成感や自己充実感を確実に味わえるよう、学年で幾つかの野菜を育てる事としました。日々の水遣りもリーダーの仕事です。



こづくえようちえんのいちにち



◎ 一斉活動「みずあそび」

- ◎ 普段のあそびの中でも子どもたちは自由に水を使うことが出来ます。バケツや如雨露などに水を入れ持ち運ぶ子もいれば、ヒモが付いた台車にいくつかの容器を乗せ引っ張ってくる子もいます。個々が効率よく運べることを考え出します。この事も、保育者が教えたのではなく、子ども自身で考えつきます。一斉活動の“みずあそび”ですが、割った竹を連ねて流す中でも子どもたちは様々な工夫を取り入れます。水を掛け合って感触を楽しむのみならず、あそびの中で言葉を交わす事で様々なイメージが膨らみ、そのあそびがより楽しくなることも少なくありません。



こづくえようちえんのいちにち



◎ あそびの時間「みずあそび」

- ◎ 「こうする」という答えがあるわけではなく、ちょっとした言葉や思いつき、予想しなかった水の流れなどで、その活動が変化します。幼保小の接続期研修会などで、「あそびは学び」という言葉がですが、まさにこのようなあそびの中で子どもたちは、誰に教えられたわけでも無く、言葉・人間関係・表現・数量・理科的知識等を学びます。保育者の役割が“指導”ではなく“援助”である所以とも言えます。



こづくえようちえんのいちにち



- ◎ 子どもたちの前に現れる“壁”は、人間関係をはじめとして少なくありません、その壁を迂回したり取り除くことは簡単なのかもしれませんが、壁の上から手を差し伸べて引っ張り上げることも出来るかもしれません。しかし、大人の手が届かなくなった時に、果たして独りでその壁を乗り越えられるでしょうか。保育者の役割が“援助”であれば、「どうしたらこの壁を乗り越えられるだろうね」と一緒に考えることや、「こうしたら手が届くかもね」とアドバイスすることが求められるのではないのでしょうか。今だから失敗できることは沢山あります。その失敗を糧として、いや、その経験を知識としてその先へ進む事に繋がると考えます。

こづくえようちえんのいちにち

◎ お弁当の時間

- ◎ 食事の時間は楽しい時間と認識しているため、保護者には「無理なく食べられる量を」とお願いしています。



◎ カイコだよ！

- ◎ あそびの中でカイコの姿を描く子、図鑑でカイコについて調べる子もいます。あそびの中では、決して“〇〇しなさい”と保育者が指示を出すのではなく、その子自身の興味・関心から取り組む姿が垣間見えます。興味・関心を引き出す環境設定も保育者の役割です。



こづくえようちえんのいちにち

◎ お帰りの会

- ◎ その日の締めくくりとなる時間は、翌日(次)の保育に対する期待を高めることも内包されます。



◎ 降園

- ◎ 通園バスを使わないことで、その日あったことを保護者に伝えることが出来ますし、保護者からの質問に答えることも出来ます。



こづくえようちえんのいちにち

- ◎ 子どもの成長に寄り添うのは、保育者だけでも保護者だけでもありません。保育者も保護者も寄り添います。そのためには相互間での直接的コミュニケーションが不可欠となります。伝達だけ(一方通行)なら文書でも済みます、質問(往復)も電話で済ませることが出来ます、しかし、本当の意味でのコミュニケーションは“一往復半”からと考えます。コミュニケーションは命令(片道)でも、すれ違いながらの挨拶(往復)でもなく、立ち止まった会話(一往復半以上)により成り立つと考えます。日々の何気ないコミュニケーションの積み重ねが、信頼関係を築く事にもなりますし、保護者の心情も推し量ることが出来るので、核心部分の話もしやすくなるのではないのでしょうか。

こづくえしょうがっこうのいちにち

◎ 小学校の動画視聴後の子どもたちから出た疑問

- ◎ 体育って、ビデオに映っているものの他にはどんなことするの？
- ◎ 給食、メニューは？ 残しても良いの？
- ◎ どんなことを勉強するのかな？(科目や内容、時間割りのこと)
- ◎ なんでピアノ弾かないの？ 無いの？ 歌とか歌わないのかな？
- ◎ 自由あそび(外)は無いの？ あるなら、どんなことが出来るのかな？(ドッチボール、リレー、…)
- ◎ プールや水あそびはあるのかな？ どんなふうにあそびするの？
- ◎ 一人で小学校に行くの？



幼稚園生に教えたいたな 学校のこと①



- ◎ 小学校では、生活科の学習で一人一鉢アサガオの種をまきました。毎日成長を楽しみに、水やりをしたり、観察をしたりして大切に育てました。



幼稚園生に教えたいたな 学校のこと②



- ◎ 小学校では、給食を食べたあとに、自分たちで掃除をします。机を運んで、ほうきで掃き掃除をして、雑巾がけをします。6年生に教えてもらいながら、掃除の仕方を覚えました。



幼稚園生に教えたいたな 学校のこと③



- ◎ 生活科の学習で公園に出かけて、どんぐりをたくさん見つけました。拾ったどんぐりを使って、自分たちで遊びを考えました。
- ◎ 例年、幼稚園生を招待し、秋祭りで一緒に遊んでいましたが、コロナ渦のため中止し、動画で伝えました。



幼稚園生に教えたいたな 学校のこと④



- ◎ コロナ渦のため、給食当番を待っているとき、配膳をしているとき、食べているときは静かに過ごします。
- ◎ みんなの量が同じになるように給食当番が配膳をしています。
- ◎ 苦手な食べ物も、少しは食べられるようにチャレンジしています。



幼稚園生に教えたいな 学校のこと⑤



◎ 生活科の時間にみんなで、幼稚園生に伝えたいことを話し合いました。



小学校に入学して、楽しかったことやできるようになったことを伝えたいなという声がたくさん出てきました。

ペア遠足やズーラシア遠足、給食の様子や掃除のやり方などを教えてあげたいな・・・

幼稚園生を招待することはできないから、動画や写真、お手紙などで伝えたいな・・・